

令和5年度 活動報告書

[大学生の力を活用した集落復興支援事業]

東京藝術大学 やないけん

目次

- I. はじめに
- II. 調査概要
- III. 集落活性化案
- IV. おわりに

はじめに

2年目を迎えた当プロジェクトは地域の寂しさを感じる課題に立ち向かい、昨年度までの外向きのPRから一転、地域内部の活性化に焦点を当てたところから、新たなアイデアが生まれました。

今年度の活動は、リニューアルされた掛田駅に設置された使われなくなったチンチン電車を活用することから発端。これに乗じて地域盛り上げを図るアイデアが模索されました。その結果、「かけまるプロジェクト」が誕生し、地域の人たちが参加する「かけまるワークショップ」を開催する運びとなりました。

昔は栄えていた街が寂しくなった、、、

～課題の再定義～

地域の外から人を呼び込む前に、
地域の内側の温度を上げることから
本当の地域活性化が始まる。



リニューアルされた駅に設置されたチンチン電車

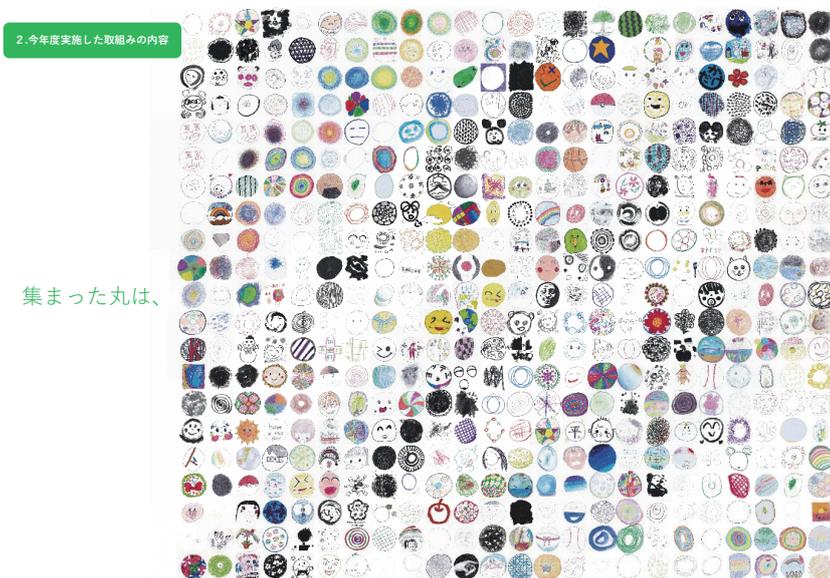
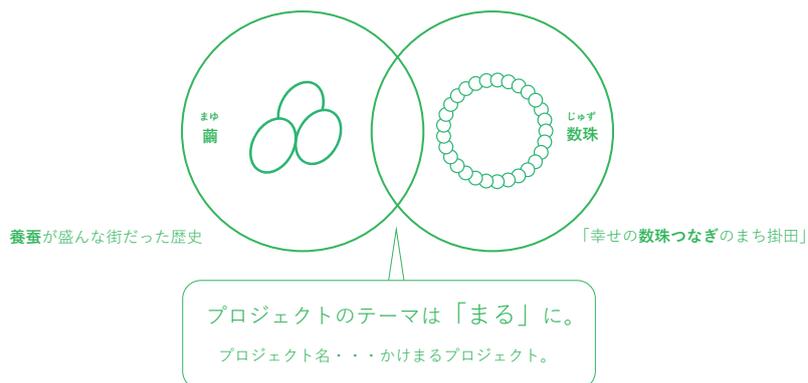
調査概要

- zoom でのヒアリングと施策提案を重ねた。
- 12/22-23 1泊2日で現地見学、交流、ワークショップの開催。



集落活性化案 step:1

ワークショップでは、街の歴史やキャッチコピーの要素を取り入れ、テーマを「まる」に設定。掛田周辺の学校などと協力し、参加者が描いた「丸」が集まり、最終的に499個もの丸が生まれました。次に、これらの丸を使用して街のシンボルフラッグを制作するステップが実施されます。

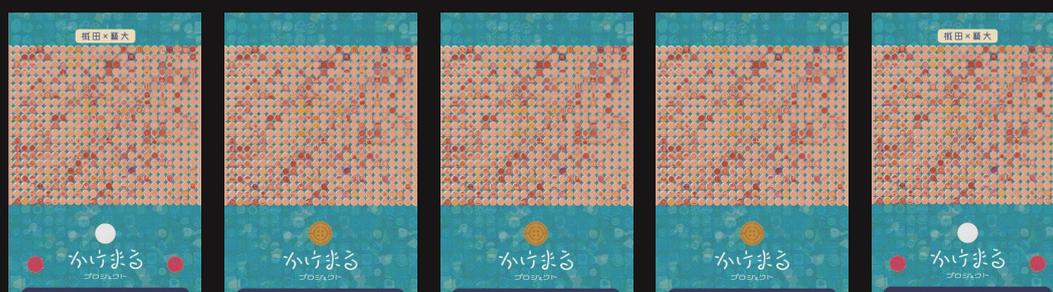


集落活性化案 step:2

フラッグは商店街の街灯 70 基に掲示され、デザインは元々の街のキャッチコピーである「幸せの数珠つなぎ」に基づき、街全体が連結して電車を形成する構想です。自分の描いた丸を探す楽しみも加わり、地域全体が自分ゴトとして一丸となる雰囲気醸し出すことを狙いとしています。掛田を訪れる人にもキャッチーで親しみやすい新たな地域アイコンとして成長していく可能性を秘めているのではないかと思います。



2. 今年度実施した取組みの内容



掲示するのは商店街にある街灯75基。
連なることで、電車が街のコンセプト「幸せの数珠つなぎ」の様に、
街中で車両がどんどん連結していく仕組みになっている。

